

# エコアクション21

## 環境経営レポート

対象期間 2019年4月1日～2020年3月31日



ブルーテクノ株式会社

広島県三原市宗郷二丁目3番35号

TEL: (0848) 67-5611

FAX: (0848) 38-7993

2020/06/19

# 目 次

●環境経営方針	1
●取組の対象組織・活動	2
会社概要	
環境経営責任者氏名及び担当者連絡先	
事業規模	
認証・登録の対象組織・活動	
●経営システム組織図	3
各部門の役割	
●実績と環境経営目標	4
●環境負荷の実績と短・中期環境経営目標	5
●主要な環境経営計画の内容	6～19
●環境関連法規への違反、訴訟の有無	20
●代表者の見直しとその評価	21

# 環境経営方針

私たちは積極的に環境保全活動を推進し、公共用水域の水質保全をはじめ地球温暖化・廃棄物問題・身近な自然の減少など、現在の環境問題を解決し、持続可能な社会を構築していかなければなりません。

当社は社員一人ひとりが環境保全の重要性を踏まえ、省エネルギーの推進や資源の循環利用など、「エコアクション21」の理念を基に、主体的な取り組みを行い地域社会に貢献し、信頼される会社を目指して事業活動を行います。

## 《活動指針》

### 1. 当社は、下記の取組を行います。

- ① 電力の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- ② 電力の消費に伴う二酸化炭素排出量を原単位で削減します。
- ③ 一般廃棄物の分別と4R(Reduce・Reuse・Recycle・Repair)の推進を行います。
- ④ 上水道の節水に努めます。
- ⑤ エコドライブの推進によって自動車燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- ⑥ 事務用品の調達においてグリーン購入を推進するとともに省資源に努めます。
- ⑦ 良好な放流水を確保することによって、水環境への負荷の低減に努め、沼田川および瀬戸内海の水環境保全に努力します。
- ⑧ 毒物劇物等の化学物質を適切に管理し、適正量の使用に努めます。

これらについて環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

### 2. 環境関連法規等や当社が約束したことを順守します。

制定日：2010年7月1日

改定日：2018年4月2日

代表取締役

篠澤 浩二

# 取組の対象組織・活動

## 会社概要

- 会社名 ブルーテクノ株式会社
- 代表者名 代表取締役 篠澤 浩二
- 所在地 広島県三原市宗郷二丁目3番35号
- 設立 平成7年10月16日
- 資本金 1,050万円
- 売上高 301百万円
- 事業年度 4月～翌年3月
- 事業内容 (公益財団法人) 広島県下水道公社からの委託を受けた  
下水道処理施設運転保守管理
- 担当者： 土井田 智雅子
- 連絡先： TEL：(0848) 67-5811 FAX：(0848) 67-5810  
E-mail：info@blue-techno.co.jp

## 事業規模

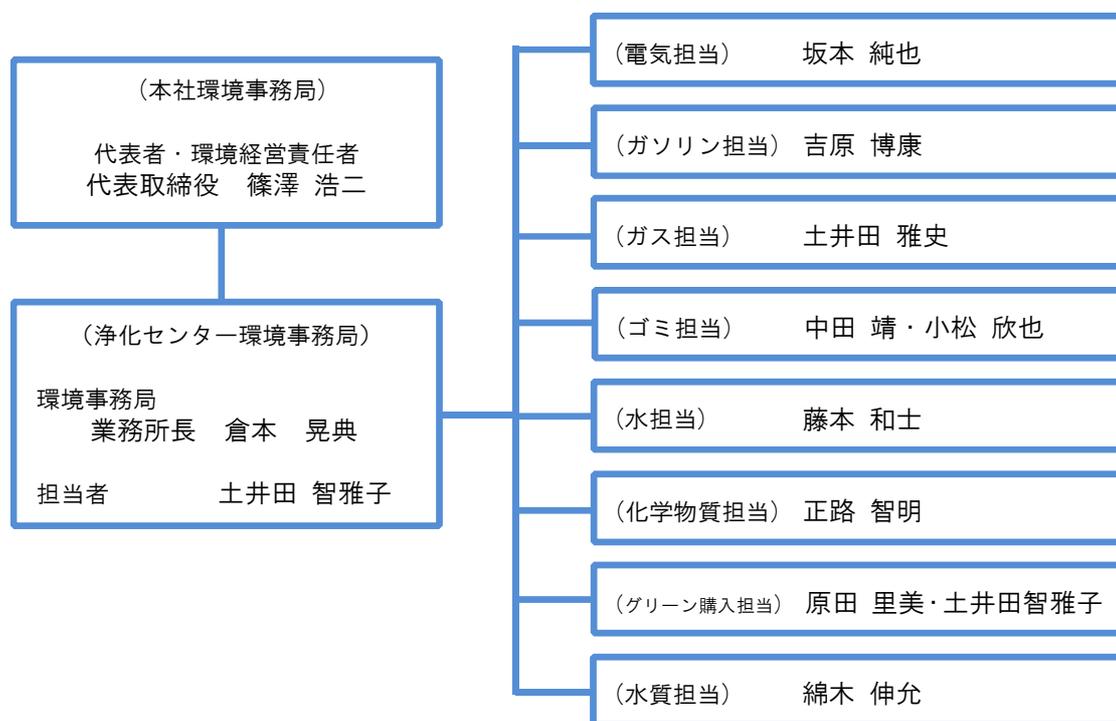
従業員数	23人
延べ床面積	32.39 m <sup>2</sup>
処理水量	4,784 千m <sup>3</sup> (沼田川浄化センター)

## 認証・登録の対象組織・活動

- 登録組織名 本社
- 活動 下水道処理施設運転保守管理

# ブルーテクノ株式会社 環境経営システム組織図

更新日：2019年5月10日



## 各部門の役割

代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営に関する統括責任</li> <li>代表者による全体の評価と見直しを実施・環境経営レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムの構築、実施、管理</li> <li>法規制等の要求事項登録簿を承認</li> <li>環境経営実施計画書を承認</li> <li>環境活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>環境経営レポートの確認</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施</li> <li>「環境関連法規等チェックリスト」の作成</li> <li>環境目標・環境経営実施計画書原案の作成</li> <li>環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>従業員に対する教育訓練の実施</li> </ul>
担当者	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当に関連する環境目標及び環境経営計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>担当の問題点の発見、是正、予防処置</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

# 環境負荷の環境目標

## ○ 中期環境目標

(2012年度の実績を基準値とし、2017~2019年度の環境目標を策定しております。)

項目			単位	基準値	目標値							
				(本社ガソリンは2013年度)	短期			中・長期				
				(基準年)	2017年度		2018年度		2019年度			
					削減割合		削減割合		削減割合			
二酸化炭素排出量	電力	浄化センター	kg-CO <sub>2</sub>	2,510,725	2,503,193	0.3%減	2,503,193	0.3%減	1,704,697	—		
			kWh	3,725,112	3,713,937		3,713,937		3,713,937	0.3%減		
		原単位(電力/流入量)		kg-CO <sub>2</sub>	0.6280	0.5778	8.0%減	0.5715	9.0%減	0.3849	—	
				kWh/m <sup>3</sup>	0.9317	0.8572		0.8478		0.8385	10.0%減	
		本社		kg-CO <sub>2</sub>	2,300	1,150	50.0%減	1,127	51.0%減	1,104	52.0%減	
				kWh	3,413	1,707		1,672		1,638		
	ガソリン		浄化センター	kg-CO <sub>2</sub>	1,393	1,727	24%増	1,727	24%増	1,713	23%増	
				L	599.91	743.89		743.89		737.89		
			本社		kg-CO <sub>2</sub>	1,577	946	40%減	946	40%減	946	40%減
					L	679.25	407.55		407.55		407.55	
	LPG		kg-CO <sub>2</sub>	1,082.04	649.22	40%減	649.22	40%減	649.22	40%減		
			m <sup>3</sup>	174.128	104.477		104.477		104.477			
廃棄物排出量	一般廃棄物	浄化センター	kg	834.49	816.97	2.1%減	815.30	2.3%減	813.63	2.5%減		
		本社	kg	58.71	17.61	70.0%減	17.03	71.0%減	16.44	72.0%減		
	産業廃棄物	浄化センター	kg	690.42	679.37	1.6%減	679.37	1.6%減	679.37	1.6%減		
水使用量	上水道使用量	浄化センター	m <sup>3</sup>	1,248.79	874.15	30.0%減	849.18	32.0%減	811.71	35.0%減		
化学物質使用量	対象物質購入量	浄化センター	kg	対象物質購入量把握								
グリーン購入対象品の購入	浄化センター		%	81%	84%	3.0%増	84%	3.0%増	84%	3.0%増		
	本社		%	86%	86%	0.0%増	86%	0.0%増	86%	0.0%増		
放流水排水基準の遵守	COD	浄化センター	mg/L	自主目標基準値以下(10以下)								
	BOD			自主目標基準値以下(3.0以下)								

※ 原単位は、放流量1m<sup>3</sup>あたりの電力使用量(kWh)としています。

※ 基準年及び目標値(2019年度の浄化センターは除く)の電力量二酸化炭素排出係数は、0.674(kg-CO<sub>2</sub>/kWh)としています。  
(平成20年度 中国電力 二酸化炭素実排出係数)

※ 2019年度 浄化センター目標値の電力量二酸化炭素排出係数は、0.459(kg-CO<sub>2</sub>/kWh)としています。  
(平成30年度 新出光 二酸化炭素実排出係数)

※ 2019年度から浄化センターの電気事業者が中国電力から新出光に変更となっています。2018年度までは中国電力であるため、2019年度の二酸化炭素排出量目標値は、電力量削減の目標値から新出光の二酸化炭素排出係数を用いて設定を行っていますが、新出光の場合の基準値がないため、実績を評価する時は、中国電力の場合の二酸化炭素排出量を参考値として計上します。

※ ガソリン・液化石油ガス(LPG)の二酸化炭素排出係数は「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」を基に算定しています。

※ 本社の水道施設は、ビル共用により、データがありません。

※ 化学物質使用量は、使用量が微量なため購入量把握及び適正使用を目標としています。評価は、年間を総合して行います。

※ 放流水排水基準の遵守に関しては、法定基準より厳しい自主目標基準値を設けて管理しています。評価は、年間を総合して行います。

※ 2019年度までは、基準値を変更せず目標設定を行います。2019年度の結果を基に、2020年度からの目標値は変更する予定です。

# 実績と目標達成状況

## ○ 環境目標の達成状況及び環境経営計画の実施状況、その評価結果

項目			単位	基準値	目標値		実績		達成判定		
				2012年度	2019年度		2019年度				
				(本社ガソリンは2013年度)		増減割合		増減割合			
二酸化炭素排出量	電力	浄化センター	(中国電力) (参考)	kg-CO <sub>2</sub>	2,510,725	2,503,193	0.3%減	2,526,352	0.93%増	△	
			(新出光)	kg-CO <sub>2</sub>	—	1,704,697	—	1,720,468	—		
			電力量	kWh	3,725,112	3,713,937	0.3%減	3,748,296	0.93%増	△	
		原単位	(中国電力) (参考)	kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>3</sup>	0.6280	0.5652	10.0%減	0.5281	15.9%減	○	
			(新出光)	kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>3</sup>	—	0.3849	—	0.3597	—		
			電力/流入量	kWh/m <sup>3</sup>	0.9317	0.8385	10.0%減	0.7836	15.9%減	○	
		放流量(参考)	m <sup>3</sup>	3,997,987	—	—	4,784,267	—			
		本社	電力量	kg-CO <sub>2</sub>	2,300	1,104	52.0%減	937	59.3%減	○	
	kWh			3,413	1,638	1,390		59.3%減	○		
		燃料	ガソリン	浄化センター	kg-CO <sub>2</sub>	1,393	1,713	23.0%増	1,740	24.9%増	×
	L				599.91	737.89	749.38				
	本社			kg-CO <sub>2</sub>	1,577	946	40.0%減	2,942	86.6%増	×	
				L	679.25	407.55		1,267.24			
	LPG		浄化センター	kg-CO <sub>2</sub>	1,082.04	649.22	40.0%減	418.94	61.3%減	○	
				L	174.128	104.477		63.994			
廃棄物排出量	一般廃棄物	浄化センター	kg	834.49	813.63	2.5%減	824.81	1.16%減	×		
		本社	kg	58.71	16.44	72.0%減	8.59	85.4%減	○		
	産業廃棄物	浄化センター	kg	690.42	679.37	1.6%減	654.22	5.24%減	○		
水使用量	上水道使用量	浄化センター	m <sup>3</sup>	1,248.79	811.71	35.0%減	794.89	36.3%減	○		
化学物質使用量	対象物質購入量	浄化センター	kg	対象物質購入量把握			60.00	—	○		
グリーン購入	浄化センター		kg	81	84	3.0%増	78	3%減	×		
	本社		%	86	86	0.0%増	78	8%減	×		
放流水排水基準の遵守	COD	浄化センター	mg/L	自主目標基準値以下(10以下)			—		△		
	BOD			自主目標基準値以下(3.0以下)			—		△		

※ 原単位は、放流量1m<sup>3</sup>あたりの電力使用量(kWh)としています。

※ 基準年及び目標値(2019年度の浄化センターは除く)の電力量二酸化炭素排出係数は、0.674(kg-CO<sub>2</sub>/kWh)としています。

(平成20年度 中国電力 二酸化炭素実排出係数)

※ 浄化センターの電気事業者が中国電力から新出光に変更となったため、今年度の二酸化炭素排出量目標値は、電力量削減の目標値から新出光の二酸化炭素排出係数を用いて設定しています。新出光の場合の基準値がないため、実績を評価するために、中国電力の場合の二酸化炭素排出量を参考値として計上しています。

※ 電力量二酸化炭素排出係数は、0.459(kg-CO<sub>2</sub>/kWh)としています。(平成30年度 新出光 二酸化炭素実排出係数)

※ ガソリン・液化石油ガス(LPG)の二酸化炭素排出係数は「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」を基に算定しています。

※ 本社の水道施設は、ビル共用により、データがありません。

※ 化学物質使用量は、使用量が微量なため購入量把握及び適正使用を目標としています。評価は、年間を総合して行います。

※ 放流水排水基準の遵守に関しては、法定基準より厳しい自主目標基準値を設けて管理しています。評価は、年間を総合して行います。

# 主要な環境経営計画の内容・実績

## 【 年度ごとの推移 】

### ① 電力使用量の削減（本社）

#### ●取組内容

- ・退室時に不要な照明は消灯する。
- ・コピー機（複合機）を省エネモードにする。
- ・エアコンの設定温度を夏は室温 25℃・冬は室温 20℃に調整する。



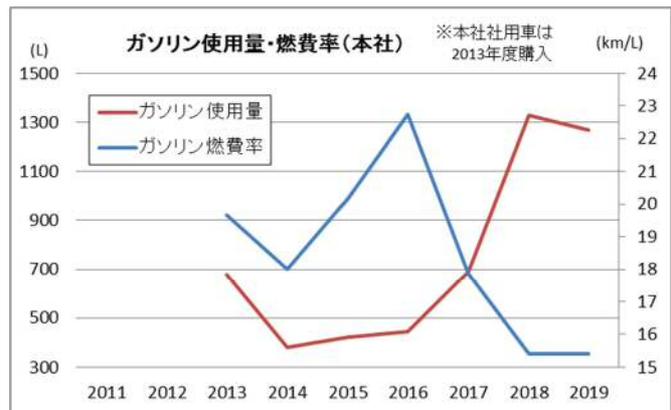
#### ◎実績と取組内容

必要のないスイッチや電源を切るとともに、換気などを行って室内環境を整えることを心掛けることで、電力量の削減を行っています。2015年度からは、室内蛍光灯をLEDに変更し、大型冷蔵庫を廃棄したため、大幅な電力削減となっています。

### ② ガソリン使用量の削減(本社)

#### ●取組内容

- ・アイドリングストップ。
- ・急加速の抑制。



#### ◎実績と取組内容

2013年度より社用車として低燃費車を使用しています。2013年度は長期研修時の交通手段として車を使用していましたが、現在は使用目的が変わり、営業などで使用しています。

エアコン使用の見直し及びエコドライブを意識することにより燃料消費率を上げることで、ガソリン使用量削減に努めていきます。

### ③ 一般廃棄物の削減（本社）

#### ●取組内容

- ・ 裏紙の使用と両面印刷の活用
- ・ ゴミの分別。
- ・ リサイクルの実施。



#### ◎実績と取組内容

2015年度から、一般廃棄物として処分していた書類及び包装紙などを資源化することで、一般廃棄物廃棄量削減に努めています。

2015年度は、大規模な書類の整理を行ったため廃棄量が増加しましたが、その後は、取組の成果が結果として表れていると思います。

### ④ 上水道使用量の削減（本社）

#### ●取組内容

- ・ 節水を心がける。

#### ◎実績と取組内容

水道設備がビル共用のため、使用量の把握ができませんが、各自で節水を心掛けています。

### ⑤ グリーン購入の推進（本社）

#### ●取組内容

- ・ 事務用品は、グリーン購入対応品を購入する。



#### ◎実績と取組内容

購入品の総量が少ないため、対応品が購入できなかった場合、購入率の減少が顕著に表れてしまうため、年度によって大きな変動があります。

物品購入時には、対応品の有無を検討した上で購入することを心掛けています。

## ⑥ 電力使用量の削減 (浄化センター)

### ●取組内容

- ・退室時に不要な照明は消灯する。
- ・コピー機（複合機）を省エネモードにする。
- ・エアコンの設定を夏は室温 25℃・冬は室温 20℃に調整する。
- ・機器運転の効率化（停止可能な機器の停止など）を図る。



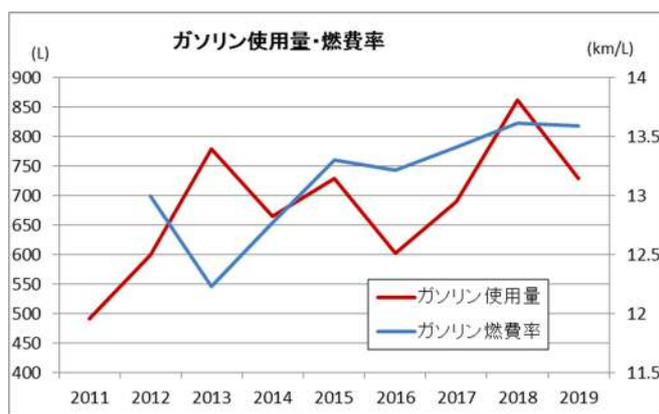
### ◎実績と取組内容

水質の状況によって設備の運転管理方法が変化するため、運転管理方法によって、電力量は大きく変動します。また、年々処理量が増加しているため、電力量削減が困難な場合もありますが、水質の良好な状態を維持することを前提として、機器の運転方法を検討し、電力使用量と、原単位の削減を目指すとともに、退室時の消灯及びエアコンの設定温度の調整などに留意することで、電力量の削減に努めていきます。

## ⑦ ガソリン使用量の削減 (浄化センター)

### ●取組内容

- ・エコドライブ運動
- ・場内の移動は、なるべく徒歩や自転車にする。
- ・高圧洗浄機を使用するときは、効率よく使用する。



### ◎実績と取組内容

2013年度より、場外マンホールポンプ設備の点検業務を行っています。

2018年度は、西日本豪雨災害に伴う河内町簡易処理プラント運転管理業務の関係で、社用車の使用が増加したため、大幅に使用量が増加しました。

年間を通して、車両使用時の効率的な走行経路の検討及びエコドライブを心掛けることにより、ガソリン使用量の削減と、燃料消費率を上げることに努めています。

## ⑧ LPG 使用量の削減（浄化センター）

### ●取組内容

- ・ 給湯器温度の適温化を図る。
- ・ お湯の使用量を削減する。



### ◎実績と取組内容

年間を通して給湯器の設定温度を下げる対策を行い、お湯をより適切に使用することにより、使用量削減に努めています。

今後も衛生面を考慮しつつ、使用量削減に向けて努力していきます。

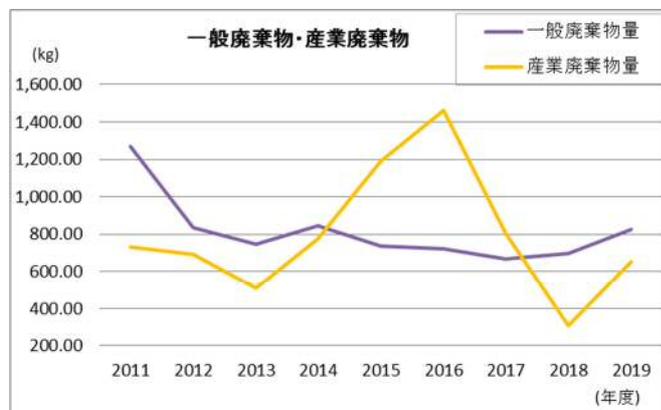
## ⑨ 廃棄物の削減（浄化センター）

### ●一般廃棄物 取組内容

- ・ ミスプリントの防止。
- ・ ミスコピーの防止。
- ・ リサイクルの実施。

### ●産業廃棄物 取組内容

- ・ 整備・再使用の実施。
- ・ リサイクルの実施。



### ◎実績と取組内容

一般廃棄物は、書類などを資源化することで廃棄量削減に努めています。

産業廃棄物は、経年劣化及び小修理業務に伴う産業廃棄物が年度によって違うため、年度によって流動的です。

今後も無駄な廃棄物を出さないこと及び分別の徹底を心掛けていくとともに、ペーパーレス化及び鉄くずなどは廃棄物リサイクル業者に搬出することを推進することで、少しでも廃棄物の削減ができるように努力します。

## ⑩ 上水道使用量の削減（浄化センター）

### ●取組内容

- ・ 節水の徹底。
- ・ 蛇口を確実に閉める。



### ◎実績と取組内容

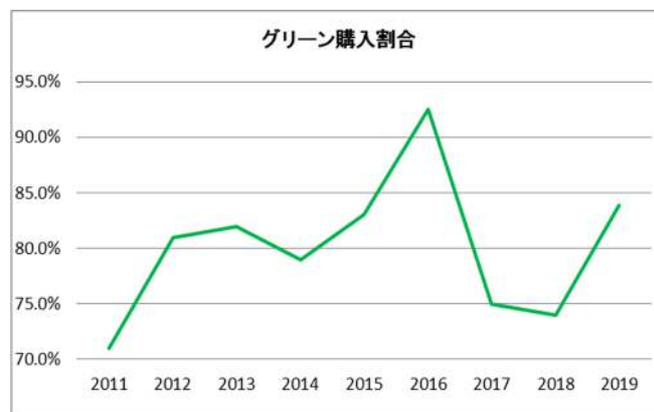
（公財）広島県下水道公社様と共用のため、（公財）広島県下水道公社様のご協力がなければ上水の使用量削減は望めないのですが、花の水やり・トイレを流す水など、下水再生水の使用可能な箇所は下水再生水を使用することにより、上水の使用量削減に努めています。

今後も、衛生面を考慮しながら、節水に努めていきます。

## ⑪ グリーン購入の推進（浄化センター）

### ●取組内容

- ・ 事務用品は、グリーン購入対応品を購入する。



### ◎実績と取組内容

購入品の総量が少ないため、対応品が購入できなかった場合、購入率の減少が顕著に表れてしまいますが、物品購入時には、常にグリーン購入対応品の有無を検討した上で、購入を行っていきます。

## ⑫ 化学物質使用量の把握（浄化センター）

### ●取組内容

- ・ 特定化学物質が含まれている塗料の購入量の把握を行う。

### ◎実績と取組内容

塗料に関しては、設備の維持管理・保守管理で使用するのみで年間使用量が微量なため、塗料の年間購入量の把握を行っています。

今後も、適正な管理を行っていきます。

## ⑬ 放流水排水基準の遵守（浄化センター）

### ●取組内容

- ・ 良好な放流水の確保のために、流入水及び放流水の水質の状況に応じた運転管理を行う。

### ◎実績と取組内容

法定基準よりも厳しい『自主目標基準値』を設けて管理を行っています。

日々変動する水質の状況に応じた設備管理を行うことで、年間を通して法定基準を超えない良好な放流水の確保に努めています。

## 【 2019 年度の達成状況 】

### ① 電力使用量の削減

本社事務所は開口部が出入口しかないの  
で事務所に熱がこもり易く、夏季の電力  
量削減は困難であるが、必要のない時は主  
電源を切り、室内換気を取り入れつつエア  
コンの設定温度の見直しを行うことで室内  
環境を整えることに努めた結果、電力量削  
減に繋がった。

電気ストーブの影響で冬季の電力量が増  
加したが、年間を通して目標を達成するこ  
とができた。

今後も、業務に支障をきたさない範囲で節電活動に取り組んでいくこととする。

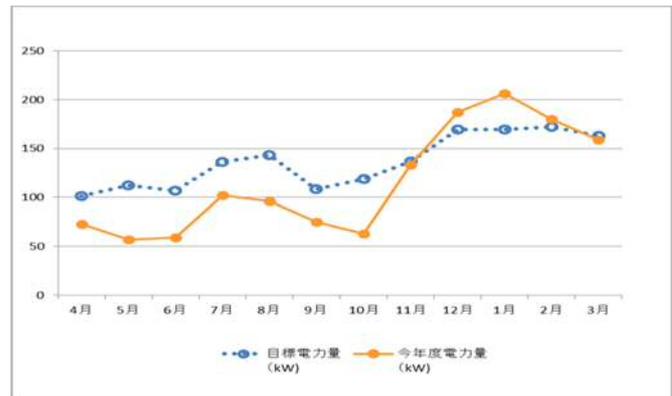
浄化センターでは、今年度は、反応タ  
ンクの運転方法を 12 月中旬まで、硝化  
促進運転で行ったことにより、施設内で  
一番電力量の大きいプロワの運転時間が  
増加したため、電力量の年間総合計は目  
標値を超えたが、原単位の年間平均値は、  
概ね目標を達成できた。

施設全体の電力量からすると成果が見  
え難いが、事務所内の空調設備の調整及  
び作業後退室時の消灯などの電気削減活  
動は、年間を通して実施した。

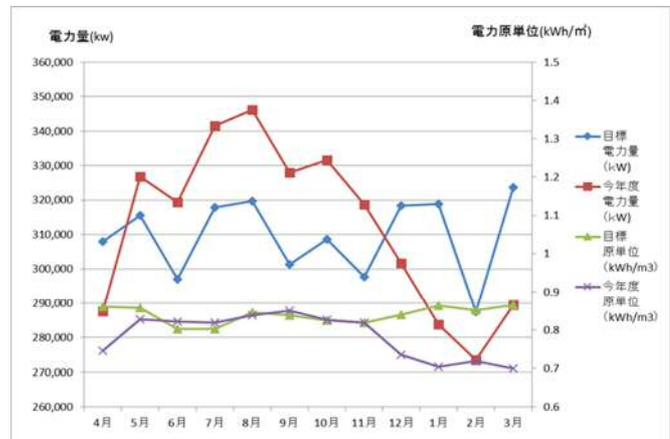
浄化センターでは、今後も流入水が増加する傾向であるため、施設の電力使用量の増加は避けられないが、弊社で定めた目標値以下の放流水水質を保ちながら、運転管理をいかに行っていくかが重要となってくる。今後も、放流水の水質保全を含めた設備管理を考慮しつつ、節電に努めていくこととする。

事務所及び施設内の電気削減活動においては、引き続き節電を心掛けていくこととする。

【本社】



【浄化センター】



## ② ガソリン購入量の削減

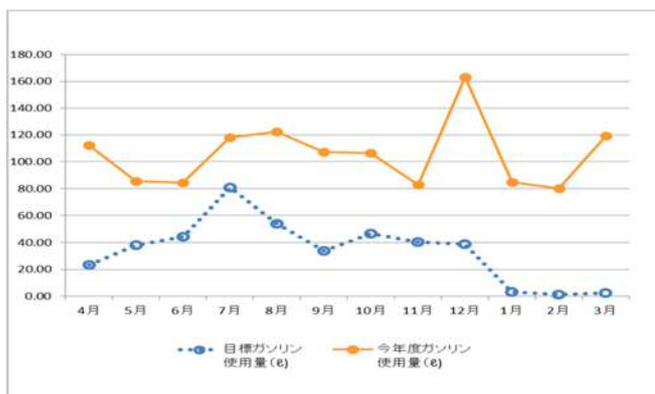
2019年度は、西日本豪雨災害に伴う河内町簡易処理プラント運転管理業務が完了し、通常業務に戻ったが、本社・浄化センター共に、年間目標値を達成することができなかった。

【本社】

本社の社用車は、基本的に社長の通勤及び営業車として使用している。基準年と使用方法に相違があるため、年間購入量を単純に比較検討することは難しいが、現状は、大幅に増加している。

しかし、燃費に関しては、今年度は2018年度の15.40km/Lと同じであった。

年間で比較すると、夏季の燃費が悪かったため、2020年度も継続してエコドライブを意識して運転する中で、特に夏季のエアコンの設定温度などの見直しを行っていくことで、ガソリン使用量の削減に繋がるよう努めていく。



浄化センターでは、ガソリン購入量は目標値の約1.5%増加となり、年間目標を達成できなかった。燃費に関しても、2018年度の13.62km/Lに対し、2019年度は13.59km/Lと、前年より若干燃費消費率が下がってしまったが、エコドライブを実践し、効率の良い運転ができるよう心掛けている。

通常行う点検業務以外でも、マンホールポンプ所などの場外施設に不具合が発生した場合は、現場に急行しなければならないため走行距離は流動的であるが、今後も、通常業務における点検ルートなどの効率化及びエコドライブの徹底により、走行距離・ガソリン使用量の削減に努めるとともに、燃料消費率を良くする運転を心掛けていく。

【浄化センター】



### ③ LPG 使用量の削減

本社は、LPG は設置されていない。

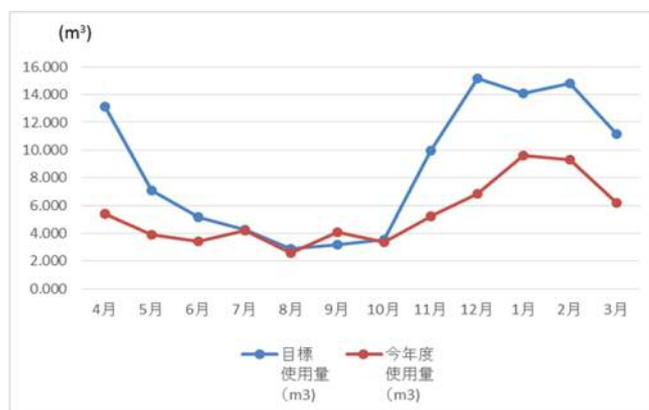
浄化センターでは、年間を通じて、手洗時及びシャワー時の設定温度を高くしすぎない対策を行った。

今年度は、夏季以外は大幅な使用量削減となった。

今年度の夏は気温の高い日が多かったことで、麦茶を沸かす頻度が多かったことと、冬は暖冬傾向であったことが理由と推察される。

衛生面を考慮して職員のシャワーを推進しているが、シャワー使用時・冬期の手洗い時などは設定温度に気を付けて、目標達成に努めることとする。

【浄化センター】



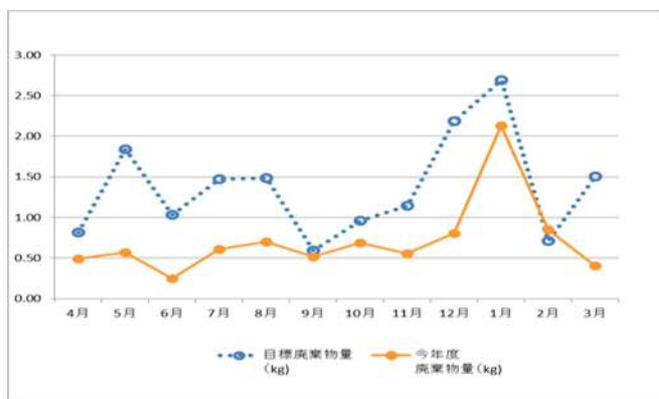
### ④ 一般廃棄物の削減

本社・浄化センター共に、ミスプリントの防止に努め、書類などの資源化を図ることを削減の対策として行っている。

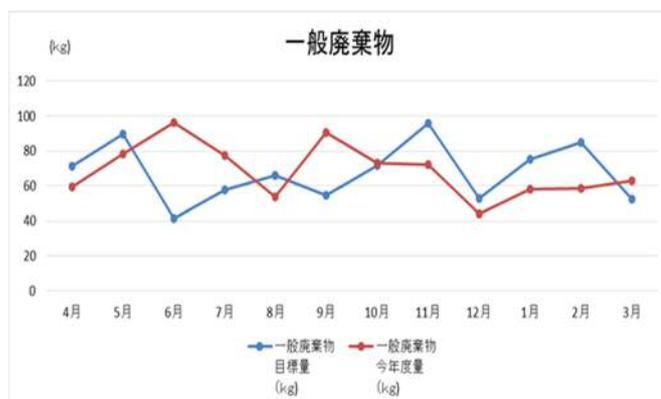
本社は、年間を通じて大幅な削減となった。

浄化センターでは、年間目標値は超えてしまったが、年間通して無駄な廃棄物を出さないよう心掛けることができた。

【本社】



【浄化センター】



基準年と廃棄物は同じではないので、目標を超過する月もあると思うが、5Sに取り組むとともに、書類などの資源化及びペーパーレス化を推進していくことで、廃棄物の削減に努めていく。

## ⑤ 産業廃棄物の削減

産業廃棄物は、浄化センターのみである。

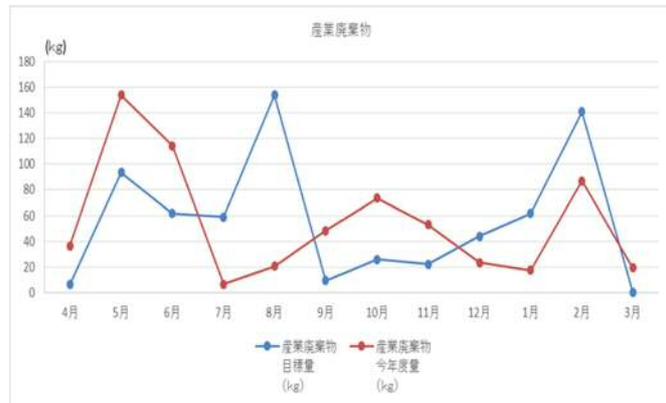
産業廃棄物は、小修理及び交換業務に伴う機器・部品の廃棄物量は内容によって大きく変動する。

施設の老朽化及び経年劣化に伴う修理業務が年々増加していくと予測されるため、年を追うごとに産業廃棄物量が増加していく可能性があることも、視野に入れておく必要がある。

(グラフには反映させていないが、今年度も、保管場所に以前から置かれていた産業廃棄物の整理を行い、鉄くずは、廃棄物リサイクル業へ搬出した。)

基準年の動向にあわせて廃棄量の管理を行っていくことは不可能であるが、2020年度も、5S活動の取組により、不要な廃棄物を出さないよう心掛けていくとともに、廃棄物リサイクル業への鉄くずの搬入を推進していくこととする。

【浄化センター】



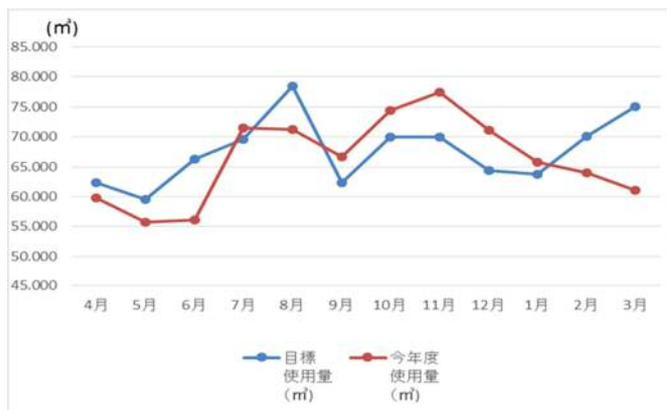
## ⑥ 水道水の削減

本社の水道は、ビル共用であるため使用量の把握はできないが、引き続き、各自で節水を心掛けていく。

浄化センターでは、その年の気温及び作業内容によって、社員のシャワー回数等に変動があるため目標値より多い月もあったが、年間目標使用量よりも削減することができた。

2020年度も引き続き、衛生面を考慮しながら節水を心掛けることとする。

【浄化センター】



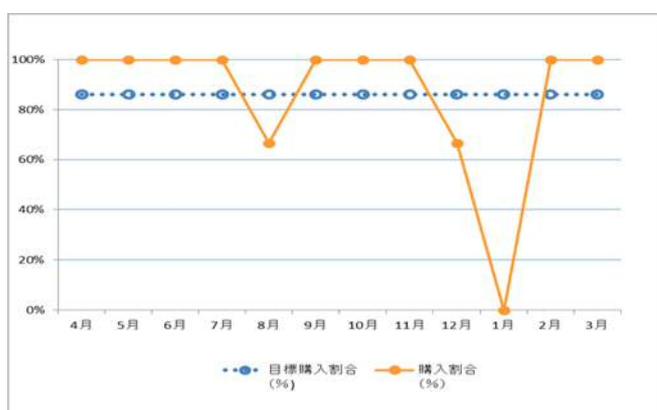
## ⑦ 事務用品のグリーン購入

本社、浄化センター共に、概ね目標を達成しているが、達成できなかった月の影響で、年間目標は達成できなかった。

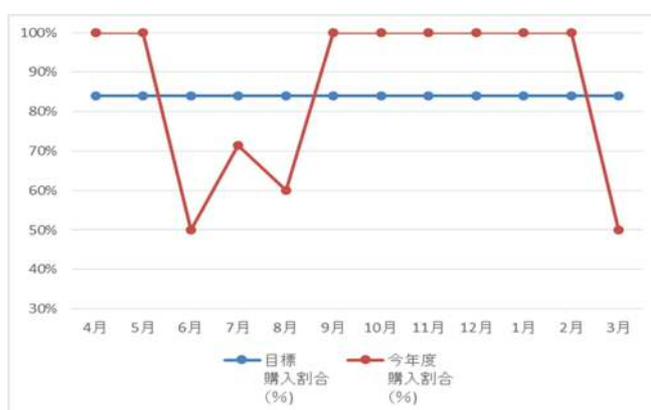
購入時、現在使用している用品を変更できない場合は、1ヶ月あたりの総購入数が少ないため、1品でも購入してしまうと、すぐに目標が達成できない状態となってしまう。

可能な限りグリーン対応品を購入する意識を常を持って物品購入を行っていくこととする。

【本社】



【浄化センター】



## ⑧ 化学物質使用量の把握（浄化センター）

年間使用量が微量なため、特定化学物質が含まれる塗料の購入量の把握を活動目的としています。

今後も、購入量の把握を行うとともに、適正な管理を行っていきます。

## ⑨ 放流水排水基準の遵守（浄化センター）

水質悪化の影響により、自主目標基準値を超過してしまう月もありましたが、年間を通して法定基準を超えることなく処理を行うことができました。

2020年度も良好な放流水の確保に努めていきます。

## 【 地域貢献・環境活動 】

- 浄化センター周辺の清掃・ゴミ拾いを行っています。また月に一度、（公財）広島県下水道公社三原支所職員様と合同で、清掃作業を行っています。

この場所は、ウォーキングなどを行う市民の方が多く利用される場所です。市民の方に、心地よい時間を過ごして頂けるよう、美観に努めています。



- 浄化センターの正門付近にプランターを設置しています。一般見学の方の憩いの場となっています。

水やりの水は、下水再生水を用いています。

- 社用車に防犯パトロールのステッカーを貼っています。社用車での走行時には、地域の防犯活動も併せて行っています。





○ 場内に造成したビオトープには、メダカを放流しています。水は下水再生水を用いています。

ビオトープには、メダカ以外にもヤゴや、おたまじゃくしも共生しています。



○ ビオトープで育ったメダカは、9月に行われる下水道ふれあいデーで、来場された住民の方にメダカをお配りしています。

毎年多くの市民の方が、メダカを楽しみに、来場して下さいます。メダカの容器は、使用済のペットボトルを再利用しています。

○ 社内で、ペットボトルキャップを集めています。

2019年度は、2,150g 集めることができました。

430gで10円分のワクチンができます。一人分は20円必要なので、成果としては微々たるものですが、ポリオワクチン作成の一助になればと思っております。





○ 場内の草刈で発生した草及び清掃時に発生した落ち枝葉などを利用して堆肥を作成しています。

作成した堆肥は、プランターの花及び下水道公社様がさつま芋などを栽培されている畑の堆肥として利用しています。



○ 各種啓発ポスターの一部紹介  
(節電・一般ごみ分別)



## 環境関連法規への違反、訴訟の有無

当社に適応される環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反は、ありませんでした。  
また、過去4年間にわたって関係機関等からの指摘および訴訟もありませんでした。

法規等の名称	該当する要求事項	遵守 評価
下水道法	水質測定結果の記録・保管	○
水質汚濁防止法 (瀬戸内海環境保全特別措置法)	排出基準の遵守	○
	総量規制基準の遵守・測定記録	○
	水質測定結果の記録・保管	○
騒音規制法	法令基準の遵守	○
振動規制法	法令基準の遵守	○
電気事業法	電気工作物の保安規定の順守	○
	電気工作物の工事、維持及び保安の監督	○
消防法	A重油地下タンク貯蔵所及び保管庫の適正管理	○
水循環基本法	健全な水循環への配慮	○
フロン類の使用の合理化及び 管理の適正化に関する法律	第一種特定製品の点検・適正管理	○
地球温暖化対策推進法	施設内設備の点検・適正管理	○

## 代表者による見直しと評価

- 2019年度の活動を総括すると、本社は、ガソリン使用量及びグリーン購入品の項目で目標値が達成できませんでした。

浄化センターは、電力量（原単位あたりの電力量は達成。）、ガソリン及び一般廃棄物の削減及びグリーン購入品の項目で目標値が達成できませんでした。

- 電力は、水質の良好な状態を維持することを前提とした上で電力使用量の削減方法を考えていくとともに、各々で、節電活動に日々取り組んでいきたいと思いを。

ガソリンは、業務内容によって増減があるが、業務を効率化すること及びエコドライブを心掛けることにより、使用量削減に向けて努力していきたいと思いを。

一般廃棄物は、引き続き紙類の資源化に取り組むとともに、ペーパーレス化を推進していきたいと思いを。

産業廃棄物は、機器の小修理業務が増加することにより今後も廃棄量は増加すると思われるが、無駄な廃棄物を排出しないよう心掛けていくとともに、廃棄物リサイクル業者を有効活用する対策を行っていきます。

水道及びガス使用量に関しては、今後も衛生面を考慮しつつ、削減に努めていきます。

グリーン購入は、事務用品購入時にグリーン購入法適合品の有無を確認した上で購入していくよう心掛けていきます。

化学物質使用量は、塗料の購入量を把握し、適正利用を心掛けていきます。

放流水排水基準の遵守に関しては、今後も良好な放流水の確保に努めていきます。

- 来年度も、全社員が協力して、小さなエコ活動の積み重ねを大切にしながら業務を行っていき、持続可能な社会を構築できるように努力していきたいと思いを。